

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

世界へのプレゼント になろう

第 2619回 例会
平成28年 2月 5日 (金)
天候 晴れ
合唱 君が代
我らの生業
四つのテスト

会長 佐藤 泰文

幹事 山本 明峰

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

2月の特別月間は『平和と紛争予防／紛争解決月間』です。この月間に寄せられたコメント、アメリカに派遣された方です。

《平和について》私の考える平和は、世界が一つになることです。私は友達や家族の様に、お互いを認め寄り添い合う事に平和を感じます。日本から来た何も知らない私を、アメリカの人は快く受け入れてくれました。私の考えを尊重し、私を知ろうとしてくれました。彼等と過ごす時間が何よりも楽しく、この時間こそが平和なのではないかと気づきました。文化や考え方が違って、お互いを理解し歩み寄る事、それが私の友情と信頼に大きく影響しました。“世界が一つになる”これは、国同士が家族や友人のような存在になる事を意味します。まずは自分から周りに歩み寄りお互いを知らうと思えば、身近なところから平和は生まれると私は思います。

『百聞は一見に如かず』。聞いた情報や偏見だけで判断するのではなく、見て確かめる。『聞き、見て確かめて、それを伝える』事のサイクル、また違った認識を改めることで、平和や紛争解決とまではいかずとも少しは違ったものになるのではないかと考えます。

ヨーロッパを目指す大勢のシリア難民、また、難民キャンプでの平和デモが大きく報道されます。教育が子供たちに与えるものは、知識に限らず、チャンスや夢など無限です。平和な国を作るのは今の子供たちです。紛争解決や平和構築の根底となるものは、宗教、文化、習慣、民族、言葉などです。異なることを尊重し、相手を思いやる姿勢でしょう。今月の月間、こうした思いが世界中にもっと広がればと願いたくなるどころです。

幹事報告

ロータリーの友事務所より

1. ロータリー手帳お買い上げのお願い
申込締切：2月25日

ガバナーより

1. 「公共イメージセミナー」開催のご案内
日時：3月9日(水)14:30~17:00
場所：アイクロス湘南6階会議室
対象者：会長・会長エクト・公共イミジ委員会
回答期限：2月29日(月)

第9グループガバナー補佐より

1. エンド・ポリオ・ナウ with 箱根応援キャンペーンの結果報告

連絡事項

1. 明日は、55周年記念事業の植樹式が13時より幕山公園にて実施されますので宜しく願います。尚、12時30分に商工会館前からバスが出ますのでご利用下さい。

スマイルBOX

入会記念日 渡辺久恭君 (9年・H18. 2. 3)

入会記念日 高杉尚男君 (16年・H11. 2. 5)

小松雄成君 久しぶりに例会に出席しました。

小倉高代君 お陰様で入会して1年迎えることができました。ありがとうございます。まだわからない事ばかりですが今後とも宜しくお願いします。

高杉尚男君・渡辺久恭君

さがみ信用金庫の信和会にて東京へ観劇会に行ってきました。

西山敦君

2/3、節分祭が好天のもと大勢の方に参加して頂き盛大にとり行われました。

高知尾朝行君 節分祭で豆まき奉仕をしました。

小倉会員よりバレンタインデーのチョコレートを頂いたので小倉会員を除いて全員でスマイル

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	会員 23名
	欠席 3(免除者 0名)		出席率 86.96%
	前回の修正出席率 100.0%		前々回の修正出席率 95.00%

事前メイクアップ 1名

卓 話

杉山 茂久 君

今日はNHKで放嘆された趣味DO楽「茶の湯 表千家 もてなしのために」の第6回を鑑賞していただきます。今回の内容は濃茶のいただき方と茶の湯を支える千家十職のうち茶碗師の楽家と竹細工・柄杓師の黒田家が紹介されております。

【楽吉左衛門】

楽家初代の長次郎は、楽焼の創設者である中国出身の父・あめや（阿米也、飴屋または飴也）と母・比丘尼の間に生まれ、楽家の代名詞ともなる黒釉を掛けた茶碗の作成において非常に優れた技量を見せた。没後、長次郎の妻の祖父・田中宗慶が豊臣秀吉から聚楽第一の字を取った「楽」の黄金の印を与えられた。これが楽家の始まりである。宗慶は千利休と同じ田中姓を持ち、利休にかなり近い存在であったと考えられている。

宗慶とその長男・宗味（長次郎の義父）は楽家の制作活動に深く関わっていたが、前政権の秀吉と親しかったことを慮り、宗慶の次男・常慶が楽家の2代となった。その後、常慶は初めて吉左衛門を名乗る。本阿弥光悦のとりなしもあって江戸幕府との関係は良好で、芝・増上寺の徳川秀忠の墓には常慶作の香炉が埋葬されていた。

3代を継いだのは常慶の長男・道入である。道入は別名（俗称）のんこう、またはノンカウとも言われる楽焼の名人で、楽家の釉薬の技法を完成させたと言われている。また長次郎以外では唯一吉左衛門を名乗らず、吉兵衛と名乗った。

以後、歴代の当主が様々な作品を作り、今日の15代に至っている。

楽茶碗は、利休の侘茶の精神を汲み取って、楽家の長次郎が作り出した赤と黒の茶碗から始まります。楽茶碗の特徴は手づくね成形と内窯焼成という制作技法にあります。

手づくね成形とは、轆轤を使わず、土を手でこねて形を作り、篋で削って姿を整える作り方です。篋で削った跡が、それぞれの楽茶碗の特長となり、見所となります。

内窯成形とは、家屋内に作られた小規模な窯で焼成することです。一般的に陶器は、山間部の傾斜地に大規模な窯を築き一度に大量に焼成しますが、楽茶碗は、街中の家の中の小規模な窯で生産されます。

「楽茶碗」とは、長次郎に始まる代々の楽家が制作したものを指しますが、現在では、楽家以外の作品でも、同様の製法で作られた陶器も「楽焼」と呼ばれています。

【黒田正玄】

黒田正玄は竹細工・柄杓師を務める家が代々襲名している名称で、柄杓の他、香合、花入など竹を使う茶道具を制作し、千家に納めてきた家系。当代は14代。

【初代正玄】

字「七郎左衛門」。越前国黒田郡生。成長して、当地の丹羽長重に仕えるが、関ヶ原の合戦で長重が西軍につき改易、七郎左衛門も浪人となる。この時に剃髪して「正玄」と号し、大津に移って竹細工の製造を始める。豊臣秀吉に柄杓を納めて「天下一」と称されていた一阿弥という

醒ヶ井の井戸守が、正玄の柄杓作りの師匠であったと言われる。その後竹細工が評判を呼び、京に転居。小堀遠州の元で茶を修行し、その推挙により江戸幕府御用達の柄杓師となる。遠州は大名への仕官も薦めたが、それは固辞。また、大徳寺 156 世住持・江月宗玩の元に参禅していたことで、千宗旦に紹介されて柄杓を納めるようになる。隠居後は洛北・瓜生山の麓に住み、近所のよしみで石川丈山と親交を結ぶ。現在も黒田家に掛かっているのれんの字は石川丈山の筆によるものと伝えられている。

以後明治維新に至るまで、歴代三千家・将軍の御用達柄杓師となる。

竹細工は、竹に細工を加えるというよりも、竹の素材を活かす細工が求められ、竹がそもそも持っている素朴な美しさと材質を活かすことに技術を駆使する必要があります。

竹細工師の仕事は、色合い、太さ、節の間隔、樋の入り方・・・といった竹一本一本の個性を見極め、「この竹はこの部分を使おう・・・」、あるいは「この道具には、あの竹がよさそうだ・・・」と竹を選ぶことから始まります。しかし、その手前、伐採してきた竹を素材として使えるようにするまでに、たいへんな時間がかかるのです。

柄杓・茶杓などの竹製の茶道具に使われる竹の種類は苦竹（まだけ）です。

11月ごろに、竹を選んで切り出します。そもそも、竹は身近な材料でしたが、最近では、市街地の拡大に伴い竹藪が減少しているため、良い竹を手に入れる為に遠隔地まで出かける必要があるそうです。

伐採した竹は、2ヶ月ほど乾かし、その後、竹の油を抜く作業を行います。その後、1ヶ月半ほど天日干しし、さらに風通しの良い日陰で数年寝かせて、初めて茶道具の素材となるのです。

竹の個性を活かす選竹眼こそ、竹細工師に求められている技術なのです。

以上 出展：フリー百科事典「ウィキペディア」より

湯河原ロータリークラブ創立55周年記念式典 実行委員長就任にあたって

神谷一博 君

今朝の理事会で実行委員長に推されましたので微力ながら皆様のお役に立てたならと思ってお受けいたしました。次年度望月会長はじめ皆様の総意の元、記念行事、式典を行いたいと思っております。皆様それぞれ何がしかの役割が回ってくることと思っております。湯河原クラブ55年の歴史にのっとり格式ある式典にしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

例会風景



佐藤会長



神谷会員



杉山会員



湯河原ロータリークラブ